

第2回アリーナ基本計画検討委員会 議事概要

〈開催概要〉

日 時：令和8年4月27日（月）14時00分～16時00分

場 所：徳島県庁10階 大会議室

出席委員：山中委員長、千葉委員、信江委員、牛尾委員、臼木委員、相原委員、里委員

欠席委員：長井委員、吉長委員

〈会議次第〉

1 開会

2 議題

（1）アリーナに関する意見交換

3 閉会

〈配布資料〉

資料1 第2回アリーナ基本計画検討委員会資料

資料2 臼木委員提供資料

〈議事概要〉

(山中委員長)

それでは委員会の進行を務めさせていただきます。まずは事務局から本日の資料につきまして、説明をお願いいたします。

(事務局)

資料1について説明(省略)

(山中委員長)

ありがとうございました。「基本フレーム」を構成する3点のうちまず、「1 目的・コンセプト」、「2 アリーナの担うべき役割、社会的価値・経済的価値」について、ご意見、ご質問等をお願いいたします。

1. 目的・コンセプト

(山中委員長)

目的・コンセプトがやや抽象的で、ビジョンとしては分かりますが具体的に目指す姿について議論が必要です。意見をいただきたいです。

(臼木委員)

余談ですが、ガンバロウズは昨日でプレーオフ敗退しました。今年優勝してアリーナの機運をより盛り上げたいと思っていましたので、悔しいです。ただ、ファンも増え、過去最高のレギュラーシーズン 2 位となり、確実に盛り上がりは増えています。

目的・コンセプトについて、アスティとくしまや市立体育館といった設備もあるため、ある程度明確な差別化と、尖ったところがほしいです。体育館や、競技する場所というよりは、観戦する場所、エンターテインメントが楽しめる場所が良いと思います。B.LEAGUE では『非日常から日常へ』というコンセプトがあります。極端な例ですが、トップチーム、トップレベルのエンターテインメント、非日常空間であることを明確にして、目的・コンセプトに落とし込みたいです。

(山中委員長)

2 番の論点にあたると思いますが、多くの方が感動を共同体験する場を目指すことは良いと思います。トップチーム、トップレベルのエンターテインメントがキーワードになります。経済活性化のハブ・プラットフォームにつながると思います。

(里委員)

1 回行けば済む場所ではなく、通っていただく場所にする必要があります。スポーツ、エンターテインメントどちらもそうです。ホールによっては二度と行きたくないけれど、ライブがあるから仕方なく行くところがあります。席が狭い、駅から 2 km 歩くしか交通機関がない、周辺に何もなくて待つ場所がないなど本当は行きたくないけど行くという場所があります。

徳島県は、人口を考えると、ここに何度も来てくださる方を増やさないと満席は考えにくい場所です。交通、居心地の良さ、イベントまでの時間を有益・有効に快適に過ごせることが重要です。アリーナで開催

するコンテンツだけでなく、それ以外でも、無理な詰め込みもない状態で、何度も行きたくなる場所になることが、地方では重視する必要があります。

(山中委員長)

目的・コンセプトとして「何度も行きたくなる」「居心地の良さ」「アクセスの良さ」というキーワードが重要だと思います。

(信江委員)

観戦の居心地の良さは非常に大事です。特に、初めて来てくださる方にとっては、施設内での快適性やストレスの少なさが、来場体験を大きく左右します。

現在ガンバロウズを応援されている方々に加えて、これから新規客を増やしていくためには、「来て良かった」「また来たい」と思ってもらえる観戦環境を整えることが重要です。

また、アリーナの担うべき役割については、まず、競技を行うための施設なのか、観戦を楽しむための施設なのかをおさえたうえで、さらに、イベント日以外にも人が集まる場所にするのかどうかを決める必要があります。今は観戦を楽しむ施設としてのスペックを入れていく話だと思いますが、イベント開催日以外も人が集う交流拠点を目指すのであれば、そのための機能や空間のあり方も、あわせて検討しないといけません。資料の「2. 担うべき役割」には「まちのシンボル・象徴的なコンテンツとなる、アリーナが地域社会の共創の場になり、コミュニティが豊かになる」とありますが、一方で、「1. 目的・コンセプト」では、主に試合日、稼働日の姿が中心の内容となっています。イベント開催日以外には、アリーナをどのように活用し、どのような人が集う場所にしていくのかも、コンセプトとあわせて、検討する必要があると思います。

(山中委員長)

基本は観る場所ですが、コンテンツがない時にどう活用するかは大事です。

観客席を活用している事例はありますか。飲食だけではうまくいかないかと、体験型に近いものや、健康系などのイメージはあります。

(里委員)

スタジアム見学ツアーや、スポーツの博物館的な使い方などがあります。

(信江委員)

私が携わったエディオンピースウイング広島では、スタジアム東側の躯体に、ミュージアム、カフェ、ショップ、コンビニ、飲食店など、試合日以外にも利用できる施設を組み込んでいます。これらの施設は、隣に公園を整備したため、入口を公園側に設けて、公園を訪れた方を主な利用者として動線を設計しました。公園部分は Park-PFI 方式で整備し、物販・飲食・体験施設などを設置しています。2024 年度実績では、試合日約 66 万人、試合日以外約 64 万人、合計約 130 万人集客できています。スタジアム内のミュージアムについても、一度見て終わりではなく、リピートしていただけるように、体験型の要素を取り入れたミュージアムです。

県外から来られるお客様にとっては、ガンバロウズのグッズも、徳島のコンテンツとして徳島県のお土産になり得ます。プースター向けのグッズショップに限らないで、徳島のチームグッズで徳島のお土産として購入したくなるような商品があると面白いし、徳島ならではの土産品が買えるショップがあると良いと思います。

アリーナ建設後の余剰地に付帯施設として、試合観戦の有無にかかわらず来訪していただける施設の設置を考えるかどうか。アリーナ単体として考えるのではなく、全体を「アリーナパーク」のように捉えて、1日楽しく過ごせる場所を目指すのかどうか。その方向性を定めたうえで、仕様を検討していく必要があります。

(牛尾委員)

目的設計からスタートだと思います。スポーツ、エンターテインメント、音楽どのジャンルをメインにするかで設えは大きく変わります。三遠ネオフェニックス時代に伺った話で、ここにしかないものを作る、例えば世界的に有名なスター選手のミュージアムを作るなども尖っている1つの要因になると思います。何に一番重点をおくかによって、使い方が変わると思いました。

(千葉委員)

規模感にも通じてきますが、目的は地元の経済の活性化、若者・女性の人口流出を防ぐことだと思います。そこに資する魅力ある場所としてアリーナをどのように設えていくかが重要です。社会課題、地域経済の活性化をテーマとして見ると、どういうアリーナが必要かという点、『365 日人が集まるアリーナ』にすることだと思います。

市民が集う場所にするためには今持っているコンテンツ、徳島県内に眠っているコンテンツをどう磨いていけば交流人口が増えていくのかを考え、そこに雇用や新しいビジネスの機会が生まれてくるかを議論すると良いです。そうすることで自ずと県民に愛される、インクルーシブなアリーナが作られていくと思います。

規模感について、大阪では10,000～15,000人規模のアリーナが複数計画されています。京都、神戸でも同様の規模感、岡山、広島では8,000～10,000人の規模感で計画・整備が進んでいます。近隣と同様の規模感をターゲットにしたアリーナ整備は避けたいほうが良いと思います。

ガンバロウズだけでなく、他の徳島県のコンテンツも磨く必要があります。ガンバロウズの使用は年間約30～50日です。残りの日数をどうやって埋めるか、スポーツ以外の徳島のローカルな資源・コンテンツに焦点を当て、磨き、席を埋められる規模感を考えることによって、県民・市民が集う空間になると思います。適正サイズは5,000～6,000人規模ではないかと思います。1万人規模を目指しても集客が少なければにぎわっているように見えず、寂しい箱のイメージになります。そういったことも踏まえて考える必要があります。

(山中委員長)

ローカルなコンテンツを磨ける場所というイメージを作ったほうが良い、ということで理解しました。

(相原委員)

県民の交流拠点としていつでも使えるということが一番の目的であってほしいと思います。試合の日以外も『誰でも使える』ことを目的・コンセプトにしていきたいです。

競技をする施設ではなく観戦する施設という話がありますが、競技ができる施設としての機能も残してほしいです。車いす競技など、いろんな競技で使える仕組みにしてほしいと思います。

2. アリーナの担うべき役割 社会的価値・経済的価値

(臼木委員)

資料の記載内容は大前提として押さえないといけないです。そのうえで、「県外から外貨を呼び込む」視点をどう捉えるかが事業の目的において重要になります。バスケットに関しては、相手チームのファンが必ず来てくれるため外貨を得る強みがあります。一方で県内向けの機運醸成も必要です。ウェルビーイングや集団的アイデンティティとして、徳島に対する帰属意識・愛着の醸成が重要と思っており、スポーツにおいての聖地化をしていきたいです。

どうすれば聖地的に思われるかについて、観る人が多いこと、会場が盛り上がることだと思います。そういう意味では、『観る人目線』で考えて、競技者がそこで競技したくなるような、「部活の決勝戦だけは絶対そこでやろう」と思ってもらえるブランディング、甲子園のようなブランディングになるかもしれないです。そういう見方をしたいと思います。

先ほど千葉委員のお話にもあった通り、徳島特有のコンテンツは、阿波踊りや、マチ★アソビが有名だと思います。どこで尖れるのか、みなさんの意見も聞きたいです。社会的価値、経済効果に関しては、私は徳島に対する帰属意識を生むことにフォーカスしたいと思います。

(山中委員長)

マチ★アソビのようなコンテンツを育てるのも良いと思います。

(信江委員)

2025年にスポーツ庁から、エディオンピースウイング広島を題材に社会的価値の定量化に関する調査研究が発表されています。社会的価値の定量化については、SROI（社会的投資収益率）のような手法もありますが、ROIのように誰もが同じ数字を財務諸表から算出できるものと異なり、アンケートをとるなどデータの収集が必要ですし、専門の機関に分析を含めて依頼しないと行けないので、相応のコストがかかります。とはいえ、社会的価値はこうした施設を整備するにあたり、とても重要なテーマだと思います。

社会的価値の可視化には具体的な内容が大事です。ピースウイングでの調査研究では、社会的価値テーマとして9つ、①地域経済の活性化、②健康促進、③地域コミュニティの強化、④防災体制の強化、⑤教育水準の向上、⑥育児水準の向上（子育てするまちに資する施設か、若いファミリーに住みやすいと思ってもらえる役割を果たしているか）、⑦ビジネスイノベーション（MICE・サテライトオフィス）、⑧共生社会への貢献、⑨循環型経済・環境意識への貢献、を指標として設定しました。すべてに対応するのではなく、どの要素に重点を置くかを地域ごとに考えることが重要です。

初期段階のコンセプトは漠然としているものですが、重要なのはそこから一つ一つ棚卸しをしていくことです。社会的価値は可視化しにくいので、具体的な取り組みとしてどうやっていくのかを決めて、それを理詰めで仕様に落とし込んでいかないと、言葉だけで終わってしまうケースがあります。今、社会的価値を可視化しようとする動きは活発で、いろいろな資料があります。スポーツ庁からも資料が公開されていますので、積極的に活用すれば良いと思います。

(山中委員長)

実際にここでできることをどう整理して見せるかは大事です。

(里委員)

経済的価値については、周辺にどれだけ滞留させられるかです。

普段車で移動している徳島県民には、徳島駅から新町川公園すら遠いと感じる方もいます。距離の課題をどう解決するか、自転車を利用する方は良いですが、車は制限があり、公共交通機関は乏しい状況です。主たる交通手段が徒歩になる場合、この距離をどう克服するかが課題です。

(山中委員長)

平日に 5,000 人呼び込むことは無理でも、1,000 人クラスが長時間滞在すればにぎわうと思います。1,000 人を呼び込むコンテンツをどうつくるかです。

候補地から近隣の大型ショッピングセンターまで 300m歩いてみました。徒歩でなんとか移動できる距離との印象です。また、同施設の入り口が候補地側を向いていないため、どのように連携を図るか、協力を得られるかも重要です。駐車場はかなり大きいですが平日でも 6 割利用されていました。来客はあるので、あとはどう回遊してもらえるか、機能分担をしながら win-win の関係が築けると良いです。アリーナ単体だけでなく、周辺との価値創造は鍵です。

3. アリーナの用途・規模の考え方 必要機能・付帯設備

(山中委員長)

1 万人を目指すことは断念するのが良いという意見もありましたが、満席感は重要だと思います。イベントやガンバロウズ利用時の状況からみて、規模感や具体的にどういう機能を持つかについてご意見を聞きたいです。

まずは、臼木委員提供資料の説明をお願いいたします。

(臼木委員)

資料 2 について説明 (省略)

(山中委員長)

用途・規模についてご意見ををお願いします。

(里委員)

アスティとくしまのバスケット利用時の最大キャパシティはどれくらいですか。

(臼木委員)

3,500 席の設定で今シーズン 6 試合開催しています。通常バスケットでは 360 度見えるように配慮しますが、現状センタービジョンがないため、両側にモニターを置くスペースやホスピタリティのスペースを確保する必要があり、3,500 席のセットが現実的です。

(里委員)

3,500 席は余裕を持ってセッティングできるのですか。

(臼木委員)

はい可能です。センタービジョンがあれば4,000席近くセットできると思います。アスティとくしまは台形型のためステージまでを栈敷席のようにすればもう少し増やすことが理論値としては可能です。

(千葉委員)

徳島ガンバロウズは成長過程のため、まだまだ集客力を高められるポテンシャルがあります。他のクラブを横並びで見ると思うのは、アリーナの持つ力とクラブの経営力が大きく影響してきます。2,000、3,000人規模から10,000人に集客力を伸ばしているクラブもあり、それぞれのチームに秘めている力を感じます。場所と経営力次第だと思います。

一方で、B.LEAGUEのゲームがない330日をどのように経営するのが大きな課題です。ガンバロウズと同程度の集客力があるコンテンツを他に3～4件常時用意できれば1万人アリーナの運営は問題ありませんが、難しいところです。他県の事例を見ても年間に何十件も集客力の高いコンテンツが来るわけではないため、シビアに検討する必要があります。

(山中委員長)

観る側の立場からすると、チケットが取れないだけで大変なことになることもあります。

(臼木委員)

B.LEAGUE、徳島県の人口の状況、徳島ヴォルティスの参考数値を加味して考えると、6,500～7,500席程度が妥当だと感じます。

(山中委員長)

B.LEAGUE PREMIERになると、試合数は60ですか。

(臼木委員)

試合は、ホームとアウェイ合わせて60で、ホームゲームは30です。あとは、シーズン前にいろんな興行を行っています。今シーズンは奈良や大阪、名古屋などで行いましたが、アリーナがあれば、それを徳島で開催するという交渉がし易くなります。選手イベントやファン感謝祭、バスケットを通じた企業の表彰式、成人式にガンバロウズが参加するなど、これらのイベントを含めても年間50～60日だと想定します。

(千葉委員)

『誰でも使える』アリーナ、という視点はとても大事だと思います。徳島ガンバロウズを1つのプラットフォームにして、スポンサーが一堂に会すイノベーションセンター的な機能をアリーナに取り込むと、経済活性化の一つになります。例えば6,000人のアリーナを運営するためには、阿波踊り以外のコンテンツをどうやって作り育てていくかという時に、財界人と行政が一体となって拠点となる機能があるアリーナにしていきたいです。そこからいろんな社会課題を解決していく＝経済活性化をしていけば、先ほど信江委員の9項目にあるような多くの社会課題を解決していくことにつながると思います。

まずは経済を活性化しないといけません。その時に人を呼び込む装置、コンテンツとして自分たちの持っているコンテンツをどう磨いていくか、何を足して作っていくかを議論し、そこからスタートアップ企業が生まれてくるような拠点を、県のサポートのもとで作れば、いろんな業種の方が365日アリーナに足を運ぶ、車で

来るという日常が生まれます。このような機能の仕組みができれば良いです。有名カフェを入れる、有名アーティストを呼ぶ、スタープレイヤーのミュージアムを作るよりも、地に足をつけて、自分達で産業を作っていく機能を入れることは一つのアイデアだと思います。

(信江委員)

試合日・イベント日(50~60日程度)は、その収益と集客人数をどれだけ最大化できるかだと思います。ガンバロウズの興行価値の向上にもつながりますし、集まった人たちが周辺地域で消費することで、地域経済への波及効果も期待できます。それとは別に、残り300日に何人の方に集まってもらう交流拠点にするのかです。例えばビジネスのイノベーション的な役割として集まるのか、小・中・高校生の子もたちが集まるような図書館+自習室を備えたサードプレイスを作るのか、子どもにとってのサードプレイスは、地域によっては十分ではありません。そういった積み重ねで何人集めることができるのか、社会的価値を作る施設として、どう複合化させていくのか、先ほどの⑤教育水準の向上、⑦ビジネスイノベーションの促進に関わってきます。

回遊性について、現地見学をして、現状は目的なく立ち寄るような立地ではないと感じました。来てもらう理由づくりが必要です。試合やイベントの日は集客人数を最大化し、にぎわいを価値に変える仕組みを作り、残りの300日はビジネスイノベーションの場にするのか、文化面を打ち出して観光客向けのコンテンツをつくるのか、子ども向けの場所を作るのか、またはそれらをすべて盛り込むのかを検討したうえで、具体的に詰めていくことになると思います。

(山中委員長)

300日をどう埋めていくか、例えば『するスポーツ』でいろいろな種類の全国大会がありますが、徳島ではできないと聞いています。アリーナを整備して誘致できるかは重要だと思います。

(相原委員)

『するスポーツ』について、SAGAアリーナで行われた全国障害者スポーツ大会ではアリーナではなく、サブアリーナで試合をしました。アスリートにとっては非常に高揚感と達成感がありました。徳島でもサブの体育館が使えるようにしてほしいです。

社会的価値について、⑧共生社会への貢献というワードがありました。そこも何か考えられると思います。障がいのある方がショップや飲食店を展開するなど、障がい者の雇用も含め共生社会への視点も取り入れてもらいたいです。

(山中委員長)

スモールショップの場所ですが、そこに住んでショップ運営するのも面白いと思いました。通うのは大変ですが、住んでいれば楽しいという若い人の話もありました。

規模については、6,000~8,000席、残りの300日をどう埋めるか、多様な利用ができる施設にするのか検討が必要ということで理解しました。その中で、社会的価値の視点も追加して整理し、多様なイベントとはどのようなものが想定されるかリストアップする作業が必要になります。今後のサウンディング調査の中でも出てくるアイデアを県で取りまとめてもらえると良いです。

(千葉委員)

長井委員の意見を伺いたいところですが、必要機能と付帯設備について、例えば1万人ツアーで1万人のアリーナがないとツアーが来ない、逆に5,000人アリーナだと採算が合わないという理屈は、1万人規模のコンサートでは、トラック20台分の資材搬入が必要になるが、5,000人クラスで20台のコストは採算が合いづらいという背景があります。

一方で、Zeppのようなライブハウス型(設備充足型)は、必要最低限の音響・照明などの設備があり、採算が合いやすく全国的に増えています。今はB.LEAGUEでもそういった装置が必要でアリーナ基準を設けています。注意深く接点を確認し、ライブにも来てもらっているケースがあります。6,000席の長崎スタジアムシティ HAPPINESS ARENA、4,660席の仙台ゼビオアリーナです。設備水準によってエンターテインメントにも選ばれています。

(山中委員長)

イベントには5,000人でも成り立つ設備を用意しておく必要があるということで理解しました。

(千葉委員)

2,000人クラスの県民会館でも利用があるのは、手ぶらで利用でき採算が合うためアーティストが来てくれます。5,000人クラスのアーティストも多く存在します。地方公演で1万人規模の設備を持って行かなくても採算がとれるように最低限の設えをすると、ライブ市場のマーケットもニーズがあると思います。

(山中委員長)

どういった設備が必要かはサウンディング調査してほしいと思います。イニシャルコストを下げる仕組みを探る調査をしてもらいたいです。

B.LEAGUEで使用する設備もライブと似たようなものになってきているのですか。

(臼木委員)

似たようになりつつありますが、コンサートに比べると見劣りはします。

(山中委員長)

逆にコンサート用の設えがあれば、バスケットでも使えるということですか。

(臼木委員)

使えます。

B.LEAGUEも照明、音響はレベルアップしています。液晶は性能から良くなっています。

ただ、アーティスト側に立った視点は必要だと思います。

(山中委員長)

センタービジョンはなくても大丈夫ですか。

(臼木委員)

必須ではないと思います。前回のお話で、GLION ARENA KOBEでは大きなモニターがセンタービジョンで見えないという弊害もありました。

(信江委員)

センタービジョンは、上や横に動く可動式もあります。

(臼木委員)

可動式の導入は良いと思います。

(信江委員)

ライブでもツアーの場合、主催者は会場ごとに設備条件が異なるため、必要な機材や備品を全部積み込んで移動するケースが多いです。特に大型コンサートの場合は、現地になくて困ることを避けるため、ケータリング用の備品なども持ち込むことがあります。その心配がなくなることは、非常に大きなメリットになります。そうしたメリットの情報発信は必要です。

試合の演出装置と、コンサートの演出装置はすべて相互利用できるわけではありません。一方で、大型コンサートで使う PA などの設備は日常では使わない可能性もあるため、適切な水準の見極めが重要です。

(牛尾委員)

席数について、臼木委員のお話の通り、徳島の規模感は 6,500～7,000 人で、席数も同様だと思います。ただ、立見や来場者数はもう少し増やせる動線となるよう設計段階から配慮してもらいたいです。立見席の見やすさも必要だと今現場で常にかけています。また、階段や上の方で立って観戦する場合、消防法上これで正しいのか議論になっています。立見の動線、避難経路の確保には適切なバッファーを見込んだ規模設定が必要です。

(山中委員長)

県の資料において、消防法上の収容人数と、座席数に差はありますか。

(事務局)

現地視察で確認したことがあります。チケット販売が好調で席数よりも多めに販売すると、消防法に基づいてお叱りを受けたという声がありました。

施設規模等を考える際は、法令上クリアにしてバッファーを考慮して計画する認識でおります。主催者責任なのか、施設の設置者責任なのかは別として、官が関わって整備する施設であるため、ポイントを押さえて進めます。

(信江委員)

最初の段階で想定することが大事です。アリーナは劇場と同じような扱いになるのかなど、用途区分や避難計画について、所管部局や関係機関との協議が必要になると思います。避難動線をどう作るのか、2、3階の人がどうやって避難するのか、避難安全検証法を使うのかどうかなど、技術的な検証を踏まえて整理する必要があります。

規模感について、収容人数の確保を優先するのか、または収容人数を減らしてでも余裕を持った座席にするのか、例えば、さまざまな観戦スタイルに対応できるようにカップル席、ファミリー席、テーブル席を作るなど、いろいろな考え方があります。面積としては 1 万人入るけれど、余裕のある形で自由な見方を楽し

んでもらおうという考え方の場合、8,500 人になることもあります。何を作るのか、どういう人たちに来てもらうのかを考えたうえで、施設のあり方を決める必要があります。箱から考えないことは非常に大事だと思います。

(山中委員長)

料金設定もそれに合わせていろんなバリエーションが出てくると思います。総収入を上げると考えると、多様なバリエーションを持たせる方が正解かもしれません。

(臼木委員)

大人と小・中学生のニーズはイメージできますが、高校生と大学生が日常的にどこに行きたいか、ニーズをどのように捉えるべきかがイメージしきれません。希望ですが、次回までに事務局で参考資料をまとめてもらいたいです。

(山中委員長)

高校生の動向ですか。駅はターゲットにしていると思います。学生は交通手段が限られているので行きやすい駅や、自転車で行ける範囲だと思います。高校生や大学生が日常的に来てくれると良いです。

(事務局)

若い世代の気持ち、行きたい場所について、出来る限りで生の声を集めたいと思います。次回の会議で報告できるようにします。

(牛尾委員)

確認ですが、コンサートや音楽で、6,000～7,000 人集客する場合、アスティとくしまとの差別化について、県としてはどのようなお考えですか。

(事務局)

アスティとくしまとの兼ね合いは、考えるべき重要なポイントになります。MICE、ライブエンターテインメントにも対応できる 5,000 席規模の施設であり、今年度から運営体制の強化も図っています。その成果も今後出てきます。このような状況下で、同じようなものを作ることは県の事業としてふさわしくありません。使い分けについて、規模なのか、機能なのかは、アリーナの具体化に合わせて見えてくると思います。

これから京都、大阪で大規模アリーナができます。アリーナを 1 万人規模にすれば、1 万人来るかはわからないというリスクがあると思います。逆に規模を抑えた時に全くライブエンターテインメントが実施できないのかというと、そうではなく他のニーズもあると思います。それが 5,000 人となるとアスティとくしまどう使い分けるか、集約するのか。並存するのであればライブのできるアスティとくしまとは違う意味で尖ったアリーナにしないといけません。この検討委員会でもご意見をいただきながら形にしたいと思います。

(臼木委員)

アスティとくしまの棲み分けは非常に大事ですが、アリーナを整備するうえでは 50 年先を見据えながら作る必要があります。その時に 50 年後のアスティとくしまはイメージしづらいです。「アスティとくしまでこれができるからアリーナはこう」とらわれ過ぎない方が良いと思います。

(里委員)

私が見たコンサートの中には、アスティとくしまのサイズを基準にして設計し、それを大阪城ホール、セキスイハイムスーパーアリーナ（宮城県総合運動公園総合体育館）、GMO アリーナさいたま（さいたまスーパーアリーナ）に持って行くものがあり、興行側でもいろいろ考えられるのだと思いました。アスティとくしまが選ばれた理由は、当時中四国で唯一使えるアリーナだったからです。

サイズも大事ですが、マーケットにおける相対的な位置で、優位性や独自性が持てることが大事だと思います。

(山中委員長)

マーケット側からと周辺の競合施設との関係も重要です。

サブアリーナについて、ガンバロウズの練習場所や強化合宿、または武道系などにも使えるようなサブアリーナの必要性はいかがでしょうか。活動のバリエーションを増やすために、サブアリーナか、別のタイプのものが必要になるのか、数百㎡くらいの空間があれば展示会などもできます。利用料金がお手頃になれば日常的に使用しやすいです。そういった機能は他でも見かけますので、機能案として明記しておくが良いです。

4. 予定地活用の方向性

(山中委員長)

周辺との関係、時間・アクセス関連など課題が多い論点です。第3回でも重要なテーマになると思います。ぜひアイデアをいただきたいです。

外環状線の高架工事が終わり、歩道がアリーナまでつながれば歩きやすくなりますがどのようになるか気になります。近隣の大型ショッピングセンターとつながれば良いなと思っています。

(臼木委員)

基本的には価値があれば徒歩でも来てくれると思います。駅から2kmは、都市部では徒歩圏内です。徳島県民にとっても、最近は意識的に歩く人が増えていますので山中委員長ご発言のショッピングセンターとの距離は問題ないと思っています。一方で、近隣に駐車場は少ないため、敷地内に一定規模の駐車場が必要です。アリーナができると民間が周辺に駐車場整備を行うことも見込まれますので、ある程度考慮した規模設定が良いと思います。

(山中委員長)

上記のショッピングセンターの駐車場は本体2,400台、第2が300台で合計2,700台です。

(信江委員)

試合がある日は歩いても、それ以外の日に徳島駅から歩くというのは難しいのではないかと思います。例えば、GLION ARENA KOBEは三ノ宮駅から900mで、歩けない距離ではありませんし、ルート的にも都市の中を散策している実感を得られるので、歩きやすい経路です。ただ、催事のない日に日常的に歩いて行くには遠いと感じます。今回の候補地は更に遠いため、日常利用の場面で、駅から歩いて行くのは難しいと思います。

そこを目指して行く価値のあるコンテンツを作ることが必要です。それと並行して、一番近い交通の結節

点からどれぐらい楽しく歩いて行けるかが大事です。同じ 1km でも苦になる 1km と、知らない間に 1km 歩いてたということがあります。これは歩きながら目に入る情報量に影響されます。いずれにせよ、現在の周辺の状況から、徳島駅からの徒歩は厳しいと感じています。

それよりも、人が行きたくなる理由を作っていくことが大事です。郊外は、目的を持たずに来る場所にはなりにくいと思います。一方、街中は回遊性があり、明確な目的がなくても訪れることができる場所です。候補地は郊外に該当するため、目的をどう付与するかが大事です。前述の通り、ビジネスの人が集まるハブ機能を設けるのか、小・中・高校生の子どもたちが来られる場所を作るのか、子育てファミリーが利用する場所にするのか、またはそれらを複合した施設にするのか、どれだけの要素を取り入れればその施設が行きたい場所になるのか、考えていくことが大事だと思います。

アリーナは屋内施設のため、スタジアムよりも閉鎖的になりやすく、外から内部の様子を見せることは難しく、中に入らないと見ることはできません。まちなかスタジアムは開放型が理想です。日建設計が手掛けるスペイン・バルセロナの「Spotify カンプ・ノウ」サッカースタジアムや、野球では横浜 DeNA ベイスターズの横浜スタジアムは、程度はそれぞれですが、外からも見られるように設計されています。アリーナでは難しいように思われがちですが、できないわけではありません。開放型のアリーナを指向して、外側にコンコースを作るなど、いろいろな形があると思います。開放感のあるカフェは入りやすいですが、中の見えない扉だけの閉ざされた施設は入りづらいです。『開放型のアリーナ』はまだあまり事例はありませんが、市民に開くという視点でも工夫する価値があると思います。

一方で、歓声などの騒音が周辺の住宅街に漏れないか等の配慮は必要です。

(山中委員長)

アメリカのスタジアムは街中にあり、ショッピングをしていると、歓声が聞こえてきて雰囲気の良いイメージがあります。

(信江委員)

それも一つの風物詩で、街の魅力にもなり得るものですが、周辺にお住まいの方にとっては、にぎわいは必要であっても騒音は困るという受け止め方もあります。特に試合日の騒音対策を設計時に織り込むことは大切です。しかしながら、完全に音漏れがなくなるわけではありませんので、常に住民に寄り添い、話し合いながら丁寧に対応していく姿勢が非常に大事です。こういったものを作るかは、地域のコミュニティとコミュニケーションをとりながら理解を得つつ進めていくことが望ましいです。

(山中委員長)

駐車場の台数について、アスティとくしまは 534 台で前払い方式です。普段の利用は 100～200 台くらいの需要だと思います。アリーナでイベント時にはどれくらいの駐車場利用になるか、アクセスの動線や、誘導方法は重要です。周辺に高校が多いため、高校生の自転車利用は多くなる可能性があります。普段ここで何をする場所になるかが鍵です。アイデアは出てきていますがもう少しサウンディングをしながら可能性を検討する必要があると思います。

(事務局)

アクセス、駐車場について、先ほど大規模イベント時には、10 t トラックが複数台くるという話がありまし

たが、実際に大規模アリーナではバックヤード側の駐車場を十分に確保することは必須であると感じています。そのうえで、公共施設を整備する基準もクリアできるように検討していきます。

にぎわい施設について、箱を作っても、外から見たらよくわからないといったことにならないように、常日頃からにぎわい施設にするためには全体的にどう考えていくかが課題です。アクセスと土地の利用に関しては密接な関わりがあり、最適解は1つではないと思います。候補地の面積は3ha 近くありますが、大規模アリーナを軸として、このエリアで使いやすく、にぎわいが出るようなものを考えると、決して広すぎるとは思いません。基本計画策定にあたっては最後に困ることがないようにしっかりと検討したものにしたいです。

駅からの距離について、2km を超えると徒歩には適していないと思います。歩く価値のある、楽しめる道程を実現したいですが、長い目線で、最終ゴールに向かってどう変えていくかは、関係自治体と協議しながら、諦めずに取り組んでいきたいと思っています。

(臼木委員)

立地的に、近隣の大型ショッピングセンターとの連携は必要不可欠です。同施設まで300m 強ある道程を往来しやすい設計にするなど別途協議が必要になるかもしれませんが、駐車場合め、連携を前提とした最適解を出せる関係性になれると良いです。例えば、飲食スペースはすべてアリーナに置き、3階は高級飲食店にして試合観戦ができるというのも一考です。

(里委員)

アスティとくしまの当初のコンセプトは『常に人が集まるにぎわいに溢れた場所』だったと認識しています。現状は常時にぎわい予定だったスペースは店舗が撤退してオフィススペースになっています。どのような想定外が起きたのか、身近にあったモデルケースとして、私も勉強したいと思っています。

商業スペースとの結びつきでいうと、LaLa arena TOKYO-BAY があります。アリーナは南船橋駅から距離がありますが、近隣にある商業施設の LaLa テラス TOKYO-BAY と南船橋駅を結ぶルートは、連絡通路が屋根付きできれいに整備されています。約1km、十数分かかりますが、距離を不快に感じさせないよううまくカバーされていました。こういった事例も参考にできると良いです。

(信江委員)

試合日と普段の交通動線は全く違うため、別に考える必要があります。

(山中委員長)

約5,000～6,000人集まる時の交通モデルと、普段モデルはかなり違う形になると思います。

5. 整備・管理運営手法の考え方

(信江委員)

公共所有ではPFI-BTOが増えていると思います。国もPFIを進めています。その際、アウトプットを細かく設定するのではなく、アウトカムを明確にし、性能発注の特性を生かすという方針があります。ここに1つ難しさがあると感じています。例えば、水道施設、下水処理場、消防署などの一般的な公共施設は、一定程度、施設の作り方が定まっています。そうした場合は、官民連携で民間が入ることによって効率を上げることができると思います。

一方で、にぎわい施設は、設計段階から運営や利用者体験を細かく積み上げないと、良いものは実現しません。例えば、大型商業施設でも、建築工事だけでなく、テナント構成、動線、運営、顧客体験を総合的に組み立てています。

にぎわい施設は効率だけではできないものです。費用削減やコストの適正化はとても大事です。一方で、コストダウンがサービスダウンにつながらないように、慎重に考える必要もあります。

PFI-BTO 方式では、設計・建設と運営の役割分担の中で、運営側の視点をどのように反映させるかが重要になります。SPC の構成によっては、建設側の比重が大きくなり、運営の視点が十分に生かされにくい場合もあります。基本的に運営がしっかりしていれば収益を上げられる可能性のある施設ですので、整備段階から運営の視点を十分に入れていくことが重要だと思います。

(事務局)

発注方式はまだ決まっていますが、収益が上がるような提案を重視することも一案かもしれません。

(山中委員長)

小規模であれば、DO 方式で進めたいうえで、施工を別途発注する動きがあります。

(信江委員)

エディオンピースウイング広島は、DB + O です。公共施設でもにぎわいをしっかりと創出しています。公共施設の場合は、経済的価値だけでなく社会的価値も必要になります。しかし、にぎわいが生まれないところには社会的価値も生まれません。まずにぎわいを作るために、どう運用して、誰が利用する施設なのかを決める必要があります。満員にするためのアリーナを作るなら、満員になるような施設の仕様が必要です。また、試合日を除く日にも人が来てくれる施設を目指すのであれば、そうした日にも人が来てくれる仕様になっている必要があります。そうしておかないで、後から修正しようとしても、極めて難しいと思います。

(牛尾委員)

信江委員と同じ意見です。

(千葉委員)

発注方式は従来方式の想定ですか。

(事務局)

現在は発注方法、整備手法についての具体的なものはありません。発注方式は計画の中身、目指す方向と官民連携のあり方等によっても変わってくると思います。ただし、PFI のメリットデメリットはある程度認識しております。PFI になるとしても O が弱くなる傾向などはクリアできる方法の DB + O 等も考えていきます。

加えて、建設業界が非常に厳しい状況です。各地のアリーナの整備についても、PFI で進めていたところが不調続きで従来型に戻っています。社会情勢の変化等も踏まえて形にしたいです。

資料 1、基本フレームとりまとめに向けた検討工程について、次回第 3 回は基本フレーム案のイメージを持ちながら、さらに具体的な議論を深掘りしていく場にしたいと思います。

(山中委員長)

お時間も参りましたので、意見交換を終了といたします。委員の皆様、本日は、長時間にわたり、貴重なご意見を賜り、ありがとうございました。

次回、第3回目の会議では「基本フレーム(案)」の作成に向け、さらに具体的な議論をいただくことになっておりますので、引き続き、よろしくお願いいたします。

それでは、司会を事務局にお返しいたします。これで進行を終わらせていただきます。

(事務局)

山中委員長ありがとうございました。これもちまして、第2回アリーナ基本計画検討委員会を閉会いたします。また、第3回検討委員会につきましては、5月中旬以降を予定しておりますので、皆様ご出席いただきますようよろしくお願いいたします。本日は誠にありがとうございました。

以上